

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 財団法人熊本市国際交流振興事業団

1 事業の趣旨・目的

地域における日本語教室開催の必要性が拡大する中、外国人の現状と日本語ボランティアの活動内容をマッチさせ、ニーズに合った日本語教室運営をとおり、多文化共生社会の構築を図る。熊本市外における生活日本語支援活動を広げることを目標とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議、題	会議の概要
6月29日 (火) 9時30分～ 12時00分	熊本市国際交流会館 ミーティングルーム	岩谷 美代子氏 竹村 朋子氏 山部 征三氏 門垣 博美氏 合志 暢一氏 八木 浩光氏 勝谷 知美氏 上田 真実氏	1、あいさつ 2、出席者紹介 3、地域日本語支援ボランティアコーディネーター養成実践講座の内容 4、次回の運営委員会について 5、連絡事項	事業の実施の経緯について説明：講座内容の確認 ①日程：H21年9月1日(火)～H22年2月2日(火)全15回 13:00～16:00(3時間) ※火曜日を中心に実施。 ②内容：申請した講座内容(案)をもとに討議。 ③募集方法について 定員20名なので、直接興味ある方、実際に講座終了後活動していただける方に声をかけて集めてはどうか？しかし、広く周知し、掘り起こしをしたい。人数を増やしたらどうか？市内に13ある公民館に社会教育主事と呼ばれる教員の方々と是非参加してもらいたい。広報をどうするか？結局、15回の講座の中で一般も参加できる内容と受講生のみ参加可能な内容とにわけ、社会教育主事の方にも参加してもらうことで決定
7月14日 (火)13時00分～15時00分	熊本市国際交流会館 中会議室	岩谷 美代子氏 竹村 朋子氏 山部 征三氏 門垣 博美氏 合志 暢一氏 八木 浩光氏 勝谷 知美氏	1、あいさつ 2、地域日本語支援コーディネーター養成実践講座の内容 3、次回の運営委員会について 4、連絡事項	事業の実施の経緯について説明：講座内容の再確認 ①日程：H21年9月1日(火)～H22年2月2日(火)全15回 13:00～16:00(3時間) ※火曜日を中心に実施。 ②内容：スケジュール及び講師の調整状況及び講義内容再確認 ③次回の運営委員会の日程について

		上田 真実氏		
8月17日 (火)13時30分～15時00分	熊本市国際交流会館 ミーティングルーム	馬場 良二氏 岩谷 美代子氏 竹村 朋子氏 山部 征三氏 門垣 博美氏 合志 暢一氏 八木 浩光氏 勝谷 知美氏 上田 真実氏	1、あいさつ 2、地域日本語支援ボランティアコーディネーター養成実践講座の受講希望者の選考 4、次回の運営委員会について 5、連絡事項	受講応募者の選考 応募者26名に対して23名を選考。 ・この講座の趣旨を理解しているか、受講応募動機などを再確認したほうがいいのでは。後日担当者が電話インタビューを行い、結果を報告。受講者を決定する。
3月26日 (金)	熊本市国際交流会館 中会議室	馬場 良二氏 岩谷 美代子氏 竹村 朋子氏 門垣 博美氏 合志 暢一氏 八木 浩光氏 勝谷 知美氏 上田 真実氏 生野 茜氏 金栗 玲佳氏 加賀直子氏	1、あいさつ 2.地域日本語支援ボランティアコーディネーター養成実践講座の事業報告 3、会計報告 4、今後について 5、その他	①講座全16回の写真(パワーポイント)を使い、振り返りをおこなった。 ②会計報告 ③講座修了生の今後の活動の場について ④次回の地域日本語支援ボランティアコーディネーター養成実践講座について

【写真】(会議風景の写真)



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名

地域日本語支援ボランティアコーディネーター養成実践講座

(2) 研修の目標

地域日本語教室運営する際の、地域日本語支援ボランティアコーディネーターとしての知識及びスキルを習得することを目標とする。

(3) 受講総数

325人 (延べ人数)

(4) 開催時間数(回数)_

47時間 (16回)

(5) 参加対象者の要件

この講座終了後地域で日本語支援ボランティアコーディネーターとして活動する意思があること。

(6) 受講者の募集方法

- ・熊本市の広報誌(市政だより)への掲載
- ・別紙の添付チラシでの広報
- ・別紙の添付チラシを利用して各種関連事業での募集

(7) 研修会場

ア 講義:熊本市国際交流会館

イ 実習:

(8) 使用した教材・リソース

別紙の添付(講座の際使用して資料)

(9) 講座内容

回	日時	講座名/内容	講師名	受講者数
1	9月1日(火) 13:30~16:30	開講式(13:30~14:00)	挨拶 合志 暢一氏	22
		在住外国人の現状と日本の課題(14:00~16:30) (多文化共生の現状と今後について)	北脇保之氏	37
2	9月10日(木) (13:30~16:30)	熊本在住の外国人の課題と現実 (入国管理法、実際の外国人の在留資格など法令 関係を中心に、オーバーステイなどの課題について)	中島真一郎氏	37
3	9月15日(火) (13:30~16:30)	熊本に住む外国人の状況 (子どもたちの日本語教育と地域日本語教室について)	岩谷美代子氏	22
		外国人の声を聞こう		
4	9月30日(水) 10:30~13:30	地域日本語教室の現状紹介 (くらしのほごくらぶの見学)	上田真実氏	20
		ボランティアと参加者の意見交換 (そこで活動している日本語支援ボランティアの方々とのディスカッション)		
5	10月6日(火) 13:30~16:30	コーディネータースキルについて (学習者、日本語ボランティアと一緒に楽しく学べる場づくりのためのワーク ショップ、教室を運営していく上で、学習者-ボランティア間の トラブルなどが発生した時のファシリテートのヒント)	木下理仁氏	18
6	10月14日(水) 13:30~16:30	防災と外国人、医療現場での日本語 (生活日本語を外国人の方々に教える時、災害時や医療現場のことを念頭 においてどんな内容や教え方が必要か)	高橋伸行氏	19
			最相博子氏	
7	10月27日(火) 13:30~16:30	日本語の特徴 (日本語学習の観点から見た日本語の特徴について)	岩谷美代子氏	20
8	11月10日(火) 13:30~16:30	外国人への情報伝達 1. 書き方	今西利之氏	19
		外国人への情報伝達 2. 話し方	竹村朋子氏	
9	12月1日(火) 13:30~16:30	日本語の教え方(入門、初級)	竹村朋子氏 岩谷美代子氏	20
10	12月8日(火) 13:30~16:30	日本語の教え方(中級)		
11	12月15日(火) 13:30~16:30	外国人労働者と日本社会	羽賀友信氏	19
		演習「地域の日本語教室をデザインしよう」準備	八木浩光氏 勝谷知美氏	
12	12月19日(土) 13:30~16:30	外国から来た子どもたちの活動報告、作文発表を聞く。	竹村朋子氏	17
		イベントコーディネーター		
13	1月19日(火) 13:30~16:30	熊本市日本語センター校見学と子どもたちへ教え方(現地集合)	山部登美枝氏	20
14	1月26日(火) 13:30~16:30	同歩会 地域ボランティア実状	寺岡良介氏	15
		地域の外国人/外国人の心理など	羽賀友信氏	
15	2月2日(火) 13:30~16:30	演習「地域の日本語教室をデザインしよう」準備・発表	八木浩光氏 勝谷知美氏	20
		総評	馬場良二氏	
		修了証書授与・閉講式	山部征三氏	
視察	3月8日(月) 9:00~16:00	先進地視察	小川操氏	10

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

・別紙資料 3

② 実施主体からの研修内容結果評価

全体的に様々な要素が盛り込まれた内容であった。県外からお越しいただいた講師の方々もたくさんの資料や教材をご用意いただき、充実した内容だった。

また、講座内容に、実際の当事者から意見を聞いたり、日本語教室を見学したり、直接触れ合える機会を設けたことにより、参加者には講座修了後の活動イメージがふくらんだのではないと思う。反面、日本語指導方法的なスキル面では少し時間が足りなかったと感じる。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

現在当事業団が開催している、日本語教室の学習者情報を再検証し、地域日本語教室の開設に向け検討していく。モデル地域を設定し、立ち上げ、運営等実践しながら活動していく環境を創出していく。外国人にとっても住みやすいまちづくりを目指し、関係団体と連携を図りながら、多方面からのサポートを実践していきます。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

現在、当事業団が開催している「くらしのにほんごくらぶ」や地域日本語教室の「武蔵ヶ丘日本語教室」およびその他の日本語教室と連携し、今後、地域日本語教室において「日本語支援ボランティアコーディネーター」活動してもらう。

② 研修後の人材活用

在住外国人への日本語支援として当事業団が実施している「くらしのにほんごくらぶ」や地域日本語教室「武蔵ヶ丘日本語教室」で、ボランティアコーディネーターとして実践していただく。また、新たに日本語教室の必要性、開設の可能性等をリサーチし、日本語教室を開催する際に、コーディネーターとして活動していただく。

(12) 今後の課題

現在熊本県内には外国人が 9,000 名以上在住しています。この数は 10 年前の約 2 倍になり、今後も増加が予想されています。日本人と結婚して定住する外国人、長期滞在する外国人などそれぞれ事情は異なりますが、日本語ができないという場合が多くをしめます。また、熊本は集住型ではなく、点在、散在型であるため、日本語の支援を必要とする外国人の存在を把握するのはとても難しいのが現状です。加えて、日本語

のサポートが熊本市内に集中していて、市外には日本語を学ぶ場所がほとんどないのが現状です。それぞれの状況に合わせた地域日本語教室の開設が急務と考えます。呼び寄せ家族の子どもたちへの教育、国際結婚の外国人、中国帰国者、留学生の家族などなど。それには、ボランティア、地域、行政の協力・連携が必要となります。まずは、点在、散在している外国人の把握、地域日本語教室開設のための場所、経費の確保です。情報と経費をどのように集めるかが大きな課題と考えます。